



大和中 スマイル通信

2024 年度 No. 2

「読み聞かせサークルスマイル」

大和中学校のみなさん、こんにちは。6月7月と、どんどん暑くなってきましたね。体調はいかがですか？6月の代表的な和風月名は、「水無月(みなづき)」です。雨が続く月なのに、水が無い月とはどういうことでしょうか。じつは旧暦の6月は、現在の7月頃。いよいよ梅雨も明け、暑さの厳しい日が続く時期なのです。そこから、水が涸れ尽きて無くなるという意味の「水無し月」が変化したものだといわれます。ですが、最も有力な説は、田んぼに水を張る月という意味の「水な月」だそうです。水無月のほかにも、6月の異称はたくさんあります。

【風待月】(かぜまちづき)

旧暦の時代は、温暖化が進む現在よりは涼しかったと思われそうですが、冷房もなかったわけですから、暑さをしのぐのがどんなに大変だったか察しがつきます。

旧暦6月は、ひたすら風が吹いてくるのを待つ月という意味で、「風待月」という異称も生まれました。きっと、かすかな風にも敏感になっていたことでしょう。

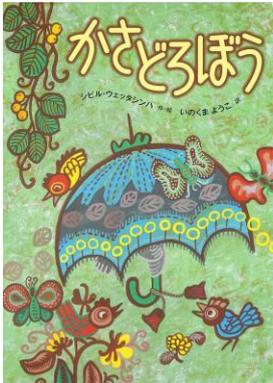
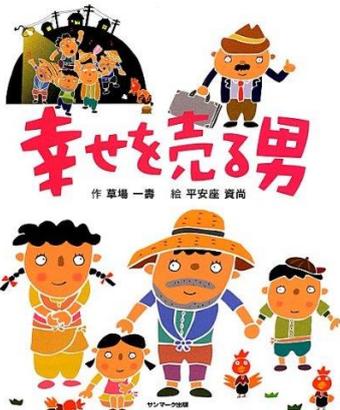
【松風月】(まつかぜづき)

「風待月」は、「待つ風月」とも言い換えられます。その「待つ風」に、「松風」という漢字を当てると、「松風月」になります。「松風」は、松の梢に吹く風のこと。古くから、風情のある風として親しまれてきました。漢字を変えただけで、風を待ちながら、松の情景にも思いをはせるという素敵な6月の異称になりますね。

6月27日(金) ～活動報告より～

クラス	読んだ本	作者	出版社
1-1	にげてさがして	ヨシタ ケシンスケ	赤ちゃんとママ社
1-2	かさどろぼう	シビル ウェッタシンハ 作 いのくまようこ 訳	ベネッセコーポレーション
1-3	グリーンマントのピーマンマン	さくら ともこ	岩崎書店
1-4	ブルドッグたんていときえたほし	谷口 智則	文溪堂
1-5	わらしべちょうじゃ	植垣 歩子	あすなる書房
1-6	王さまのくびかざり	なすだ みのる	ひくまの出版
3-2	もしものせかい	ヨシタケ シンスケ	赤ちゃんとママ社
3-3	やまのかいしゃ	スズキ コージ さく かたやま けん え	福音館書店
3-4	幸せを売る男	草場一壽 作 平安座資尚 絵	サンマーク出版
3-5	こんとあき	林 明子	福音館書店
3-6	絶望は神さまからの贈りもの	ひすい ことろう 柴田 エリー	SBクリエイティブ
8組	むれ	ひろた あきら	KADOKAWA

6月の読み聞かせ本の中から… 活動報告より

<p>○ にげてさがして</p>  <p>にげるために、さがすために、 きみのあしは、ついている。</p> <p><small>生きづらい世の中の すべての人へ、 学びは、あなただけの 物語に続きます。</small></p> <p>ヨシタケ シンスケ</p>	<p>作：ヨシタケ シンスケ</p> <p>今、中1の子たちは、入学し、中間テスト、期末テストがあり、部活にも入り、楽しんでいる子もいれば、ちょっと苦しい子もいるので、この本をえらびました。</p> <p>「そうぞうりよくをつかうのがにがてなひと」がいる。ひどいことをいたり、したりするひともあるので、そんなひとからははなれる事。にげて、さがして、あなたの大切な人に出会えますように…という内容です。</p> <p>「逃げずに戦うことの大事さを説くお話」がある一方で、「逃げることで新しい可能性に出会うお話」があってもよいのではないかと。著者のそんな思いが込められた絵本です。</p>
<p>○ かさどろぼう</p> 	<p>作・絵：シビル・ウェッタシンハ 訳：いのくまようこ</p> <p>スリランカのお話です。</p> <p>かさというのを見たことがない頃、はじめてまちに出かけて「かさ」を買ってきたキリママおじさん。帰りにコーヒーをのみながらお店にいるうちに無くなって…。このどろぼうをつかまえようと策を練ったキリママおじさん。果たしてその策は？どろぼうはつかまったのでしょうか？どろぼうは誰だったのでしょうか？</p> <p>よい絵本選定 野間国際絵本原画コンクール入賞 小さな村を舞台にのびのびと語られる、スリランカのユーモラスなお話です。</p>
<p>○ むれ</p> 	<p>作：ひろた あきら</p> <p>ピース又吉直樹 推薦!1989年愛知県生まれ、吉本興業所属のお笑い芸人のひろたあきらさんの初絵本作品。</p> <p>シンプルなテキストに、びっしり描き込まれた”むれ”。ひつじのむれ、さかなのむれ……、とうめいにんげんのむれ?だんだんかわった“むれ”が登場します。同じものの中から一つだけ違うものを探しているようで、ホントは同じなのかな?全部違うんじゃないかな?といろいろ考えてしまう、面白い本です。</p>
<p>○幸せを売る男</p> 	<p>作：草場一壽 絵：平安座資尚</p> <p>「幸せを売る男」たちが貧しい村を探しています。彼らの言う「人間らしい“幸せ”」な暮らしを売るために。</p> <p>自然に包まれて大地の恵みに感謝して生きている村に住むトモ。トモの村に「幸せを売る男」たちがやってきました。「なんて貧しいんだ。なに1つないじゃないか」</p> <p>幸せを売ってやる、と男たちは電柱を張りめぐらしていき、電気をひきました。村の人たちはそれを買うために山から気を切り出して渡します。さて、幸せは手に入るでしょうか？そして“幸せ”ってなんでしょうね？</p>

